

## 県外派遣報告書

審判員名	小柳 幸子	所属	ミニ連
大会名	第44回 関東中学校バスケットボール大会		
期間	平成26年8月8日(金)～10日(日)		
会場	大田区総合体育館・大森スポーツセンター		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
8月8日(金)	審判会議・審判ミーティング・1回戦	大田区総合体育館・大森スポーツセンター	
8月9日(土)	2回戦・準々決勝	大田区総合体育館・大森スポーツセンター	
8月10日(日)	レクチャー・準決勝・決勝	大田区総合体育館	
会議 講義			
<p>◎関東バスケットボール協会 審判委員長:安西 郷史 氏</p> <p>IHも終わったばかりですが、IHは終わりました。私達は関東中学を成功裡に終わらせる使命がある。IHを見ても、東京・関東のレベルは高い。正しくプレイして、正しいチームが勝ち上がれるように、与えられた試合、一つずつをきちんと終わらせられるように努めて欲しい。また、東京都の皆様には、IHも重なり準備も大変だったと思います。大会中もまたお世話になりますが、宜しくお願いします。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>東京都バスケットボール協会 審判委員長:久保裕紀氏が、代表者会議へご出席の為、東京都中体連 審判委員長:藤代 透氏よりご挨拶を頂きました。また、関東中体連バスケットボール審判委員長:二宮隆二氏より、他連盟と比べて経験が少ない審判員もいるので、沢山ご指導を頂きたいとのお話を頂きました。</p>			
<p>【8月8日(金) ミーティング】</p> <p>■関東指名審判 星野 由貴 氏 「ステップアップを経て考えること」</p> <p>良いレフリー・信頼されるレフリーになる為に、何を支えにどのような意識をもって努力をしているか。ルールや技術・戦術を理解し、失敗から気付く学びが支えになっている。</p> <p>「変わる」変化したもの:主審、カテゴリー、レベル、有料ゲーム＝難しさ、怖さ、責任  「変える」変化させる必要があったもの:考える事の広さ・深さ、メンタルの強さ＝緊張感の持続  「変わらない」変化させてはいけないもの:良さ、認められてきた部分、信念、感謝の気持ち・・・</p> <p>☆基本的な事を一つひとつしっかり抑え、審判としての足元を固める事が、これからのステップアップにつながるはず。明確な目標を持つ事が、行動の原動力となる。重要な要因は自分の”信念”。一人一人が信念を貫き、目の前の試合を大切に臨んで欲しい。我々の役目に全力を尽くしましょう！</p>			

■関東指名審判 大庭 英裕 氏 「ランクアップのために」

・レフェリーとしての目標: AAにならなかつたら、A級になった意味が無い。今までに審判活動に費やしてきた時間を無駄にはしてはいけない。  
 ・ランクアップとは何か?: 今よりも1回戦上のゲームを担当、新たなカテゴリーのゲームを担当、関東大会等への派遣、大事なゲームの主審・・表面的な昇格だけでは無い。  
 ・ランクアップする為に必要な事: 技術・戦術等の理解を深める、試合観戦、体カトレーニング、講習会企画、職場・家庭の環境等。  
 ・ランクアップする為に実践、心掛けている事: 今、自分ができる時間の中で必要な事をやって行かなければ、ランクアップできないし、ランクアップしてもできない。現状に甘えていたら変わらない。結果を変える為には、何かを違う方向に変えなければいけない。  
 →できる(承知している)事が増えて行く=自信の裏付け=信頼度アップ⇒必要なライセンスに変わる。  
 →”常に他者に評価される”・”使命感”(置かれている環境・立場)・”割当の変化、派遣、審査ノミネット”(割当した人の意図、思い)・”憧れ、魅力”・・自分の意思が無いと振り分けられない。意思の強さが必要  
 ⇒「絶対になる」意思が不可欠  
 ☆個々の特性(悪い印象)を払拭するには時間がかかる。割当られたゲームに対して、目標を持ち、短期達成の繰り返しがランクアップに繋がる。その為には、周囲に左右されない意思の強さと、「絶対になる」という意思が不可欠である。

実技

担当試合	期 日	8月9日(土)	男子	女子	準々決勝
	対戦カード	滑川(茨城)	VS	昭和学院(千葉)	主審
	相手審判	星野 由貴氏(指名)			

ミーティング内容 主任 鈴木 寿之氏(東京)

一試合を通しての基準作り。質の悪いプレイに対するの対応。ゲーム始まりの早い段階で、もっと基準を示す必要のある試合内容だった。点数差のある試合だったので、ベンチや選手への対応など、もっと工夫が必要だったのでは無いか。審判がコントロールしなければいけない試合だった。ゲームの始まりでの基準作りが特に必要な内容だったので、そこでの判断の甘さが全てだったのでは無いか。

担当試合	期 日	8月10日(日)	男子	女子	準決勝
	対戦カード	石神井西(東京)	VS	豊野(埼玉)	主審
	相手審判	佐藤 弘之氏(群馬)・安藤 俊明氏(千葉)			

ミーティング内容 主任 伊藤 亮介(東京)

難しいケースは無かったが、ショットに繋がるプレイでのDFの手の使い方を取り上げた方が良かったと思うものが、いくつかあった。この試合の中では、ボールラインがフリースローラインから下に落ちた時にサイドを素早く変えるくらいのタイミングで良かったと思う。リードの動きが悩んだり考えたりで遅くなってしまい、ローテーションが上手く行かない場面があった。もっと早く決断をして、素早く位置取り(サイド)を変える判断が必要。

全体の感想

今回、初めて関東中学の派遣を頂き、経験の少ないカテゴリーの難しさを実感しました。1試合1試合が負けてしまったら引退と言う大事な試合でもあり、また全国大会をかけた試合も担当させて頂きましたが、審判としてのゲームコントロールが不足してしまいました。その大会・試合に対してのチームの意図を、もっと深く読み取れるようにしなければいけないと思いました。最終日の安西氏によるレクチャーは、割当の都合で拝聴できず残念でしたが、ミーティングでの先生方のお話にもあったように、ランクアップする為の課題を強く持ち、一つ一つを大切に取組んで行きたいと思えます。  
 今大会に際し、東京都の皆様には、他大会等も重なり準備も大変な中、大会中も細かな所までご配慮を頂き、ありがとうございました。この場をお借りして、感謝申し上げます。また、今回このような貴重な機会を下さいました皆様、また沢山のご指導を頂きました皆様に、心より感謝申し上げます。この経験を自身に生かし、また貢献できるように努めて参ります。